

報道発表資料の配付日時 8月30日(金) 16時00分

発表項目 (行事名)		ほっかいどう未来チャレンジ基金 「みらチャレ通信」Vol. 23の発行について	
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
概 要	<p>未来や世界を見据え、チャレンジ精神にあふれ、優れた能力を持つ若者達の海外挑戦を応援するため、平成28年12月に創設した「ほっかいどう未来チャレンジ基金」。この基金により海外に留学した方々の活動状況などをお伝えする月刊紙「みらチャレ通信」Vol. 23を発行しました。</p> <p>■掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国生の活動状況（グローバル人材育成キャンプ、コラボチームイベントin鶴居村） ・留学生達の活動報告 <ul style="list-style-type: none"> 〔学生留学コース：伊藤さん、林さん、星野さん〕 〔スポーツコース：梅村さん、田中さん〕 ・古本、ハガキ、切手などによる寄附募集 <p>■主な配布先 応援パートナー（企業、団体等）、道内大学等 ※基金ホームページにも掲載しています。</p> <p>■発行時期 毎月下旬</p>		
参 考	ほっかいどう未来チャレンジ基金 公式Facebook「みらチャレ」 https://m.facebook.com/mirachalle/ 助成対象者の海外での活動状況等を随時掲載しています。 <div style="float: right; text-align: right;">  公式Facebookページ みらチャレ </div> 		
報道（取材） に当たって のお願い	助成対象者の海外留学の状況を情報発信することにより、道内の若者の海外挑戦に向けた機運醸成と、寄附などオール北海道での応援体制の構築を図っていきたくので、積極的な報道にご協力よろしく申し上げます。		
他のクラブ との関係	同時配付 (場所) 同時レク		
担 当 (連絡先)	総合政策部政策局総合教育推進室 永田 電話：ダイヤルイン 011-206-7380 (内線 23-109)		



北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします! 8月末時点で、第2期生3名、第3期生2名が海外留学中です!

グローバル人材育成キャンプで講演しました(第1期生齋藤さん、第2期生立岩さん)

8月上旬に開催された「北海道グローバル人材育成キャンプ」(道教育委員会主催)で、スポーツコースで海外留学した第1期生の齋藤雄大さんと、学生留学コースの第2期生の立岩丈武さんが講師として登壇しました。

このキャンプは全期間英語で進行し、課題解決型や発信型の活動に取り組むことにより、地球規模の視野と地域の視点を併せもった北海道のグローバル化を担う人材の育成を目的として、全道4地域で開催しています。



【第2期生 立岩丈武さん】

齋藤さんは8月5日に北見会場で、約30名の高校生たちに障がい者スポーツとの出会いや、アメリカの大学での留学生活、英語学習のモチベーションの維持などについて講演しました。

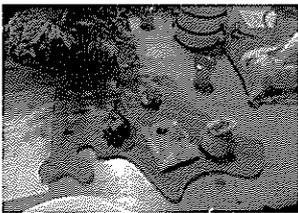
また、立岩さんは8月7日に札幌会場で、留学を通して変わったことを講演したほか、「留学により得られるもの」などをテーマにグループワークを行い、自分たちの後に続く道内の高校生たちに、海外挑戦での体験や学びの大切さを伝えました。



【第1期生 齋藤雄大さん】

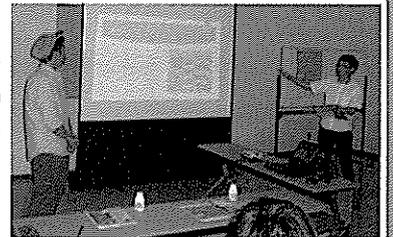
コラボチームイベント in 鶴居村 ～農泊推進セミナー&地域食交流会～

イタリアにワイン酵母の研究のため留学した第1期生高橋宗一郎さんと、イタリアにスローフードを学ぶため留学した第2期生服部大地さんが協力し、鶴居村でイベントを開催しました。イベントでは、留学先でそれぞれが積み重ねた知識や経験及び帰国後の活動や学びを紹介するセミナーと、数種類のワインと地元食材を使った料理が味わえる交流会を開催しました。



セミナーでは、それぞれの留学体験の報告とともに、イタリアに留学した経験から、地元の食材を生かした料理を道産ワインと一緒に楽しむことができるような環境づくりが、これからの目標になると話がありました。

その後、服部さんがシェフを務める「ハートンツリー」に会場を移し、食とワインによる「みらチャレコラボチーム」としての成果発表を行いました。服部さんが鶴居村の食材を利用した料理を提供し、高橋さんがこの日のメニューに合わせて選んだ道産ワインの説明を行いながら、地元の食材を生かした料理を道産ワインと一緒に楽しみました。



留学生たちの活動状況

学生留学コース

第2期生 伊藤 昂 さん ～スポーツビジネスを学び、北海道のテニス界の国際化に貢献～

テニスの国際大会が開催されるアメリカ、オーストラリア、オランダの3か国に、10月から10か月間留学

7月は、気温が35度を超える猛暑の中、子どもたちを対象としたテニスのサマーキャンプを行いました。練習中にホッケーやサッカーなどテニス以外のスポーツを取り入れたり、水遊びをさせるなど、子どもたちに飽きさせないよう工夫をして取り組みました。また、人によってコーチング方法を変え、自分にとって何が最善か自分で考えさせるオランダ式のコーチングも学びました。

皆様のサポートもあり、10か月間の留学を怪我なく終えることができました。留学中は毎日密度の濃い日々で、正直自分がどのくらい成長できたのかまだ実感はありませんが、自分の軸を持って自分だけの視点から何かを見つけ、本気で物事に取り組むようになりました。自分の欠点に気付くことができたのも、この留学の成果であると感じています。



第2期生 林 泰佑 さん ～木造建築技術を学び、海外との架け橋となる建築家を目指す～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、9月から1年間、アアルト大学のウッドプログラムを受講

7月は、建築事務所でのインターンシップのみの活動となり、先月に引き続き、古城の改修プロジェクトを担当しました。コンピュータでの3Dモデル作成が主な仕事で、今ある図面や写真から予想しながら3Dモデルを作成していきました。7月はフィンランドの多くの会社が長期休暇を取っているので、普段とは違う静かなオフィスの雰囲気を楽しむことができたのも良かったです。こうしたフィンランドでの働き方、スタイルなどを体験でき、将来の自分の働き方などを考えるヒントやきっかけになりました。



第2期生 星野 愛花里さん ～種子生産やその輸出入を学び、北海道農業との連携を目指す～

種子ビジネスの発展が期待されるキルギスに、12月から1年間留学中

キルギスでは夏の間には家畜小屋にいた羊や牛などを放牧地に連れて行き育てます。毎日のように放牧地を登るヨーロッパからの観光客を見かけ、牧畜という産業が一番コストがかからず、それ自体も観光資源となっていることが分かりました。

先月に引き続き、農家で聞き取り調査を行いました。ソ連崩壊後、農地が分配され個人経営となってしまったので、仕事が忙しくなり、近所の人と過ごす時間が減った実感があるという話が印象に残りました。キルギスでは市場経済化によってお金に敏感になる中で人間関係も変化しているようです。



スポーツコース

第2期生 田中 怜恵子さん

～本場でラグビーを学び、道内女子ラグビーの発展に貢献～
ラグビーの本場ニュージーランドで、3月から6か月間、指導者と選手双方の立場からラグビープログラムに参加

7月は、カンタベリー州の代表と育成強化チームの選考も兼ねた育成練習会と試合が行われました。

各クラブチームから参加した選手が4つのチームに分けられ、それぞれのチームでチームビルディングや試合に向けての確認を行いました。

話し合いやチームビルディングを行い、練習や試合を重ねるごとにチームとしての成長が見られ、最後の試合が終わる頃には1か月で作り上げたチームとは思えないほどの一体感がありました。チームビルディングを通してチームとして一つになることの重要性を強く感じました。



第3期生 向井原 洋平さん

～アスリットトレーナーに必要な知識と技術を習得、道内スポーツ界に貢献～
アメリカで最新のスポーツ医学を学ぶため、7月から1年間留学中

メジャーリーグのサンフランシスコ・ジャイアンツでアスレティックトレーニング・インターンとしてスポーツ医学部門の実務経験を積んでいます。

7月は、カリフォルニア州とネバダ州から選抜された35人程の高校生のスカウティングイベントの補助を担当しました。地域レベルのイベントにも関わらず、最新のテクノロジーを用いて選手の能力を測っていて、日本との違いにとっても驚きました。パフォーマンス測定では、より野球に特化したデータを計測しているという点で、非常に参考になりました。



古本・八ガキ・切手などによる寄附を受け付けています。

応援パートナー「NORTH CREATE」様のご協力により、ご家庭や会社で不要になった本・八ガキ・切手などを寄附することで、その査定額全額が基金に寄附され、若者の支援に繋がる「古本募金ハピぼん」の取組を行っています。個人での参加はもちろん、企業単位での参加も可能です。ハピぼんホームページ(<http://hapibon.com/>)をご覧ください。【これまでの寄附：延べ612人の方から5,294冊】



古本募金
ハッピープロジェクト



応援パートナーの皆様

(2019年8月現在・敬称略)

有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業 5者

北海道総合政策部政策局総合教育推進室
TEL: 011-206-7380 (直通) FAX: 011-232-6313
E-mail: mirai_jinza@pref.hokkaido.lg.jp
ホームページ: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinza.htm>



公式Facebookページ
からチャレ

助成対象者のチャレンジ
風景をお届けします。

